

BCPにおける考え方の違い（自然災害と感染症）

項目	自然災害	新型コロナウイルス感染症
事業継続方針	<ul style="list-style-type: none">● できる限り事業の継続・早期復旧を図る● サービス形態を変更して事業を継続	<ul style="list-style-type: none">● 感染リスク、社会的責任、経営面を勘案し事業継続のレベルを決める <p>→正確な情報を基に的確に判断する</p>
被害の対象	<ul style="list-style-type: none">● 主として、施設・設備等、社会インフラへの被害が大きい	<ul style="list-style-type: none">● 主として、人への健康被害が大きい <p>→業務継続は、主にヒトのやりくりの問題</p>
地理的な影響範囲	<ul style="list-style-type: none">● 被害が地域的・局所的	<ul style="list-style-type: none">● 被害が国内全域、全世界的となる
被害の期間	<ul style="list-style-type: none">● 過去事例等からある程度の影響想定が可能	<ul style="list-style-type: none">● 長期化すると考えられるが、不確実性が高く影響予測が困難
被害発生と被害制御	<ul style="list-style-type: none">● 地震の場合は兆候がなく突発する● 被害量は事後の制御不可能	<ul style="list-style-type: none">● 海外で発生した場合、国内発生までの間、準備が可能● 被害量は感染防止策により左右される <p>→感染防止策が重要</p>
事業への影響	<ul style="list-style-type: none">● 事業を復旧すれば業績回復が期待できる	<ul style="list-style-type: none">● 集客施設等では長期間利用者が減少し、業績悪化が懸念される